

暴動の街に住む



先月、引越しをした。家もTVもインターネットもない数日。その最中、ロンドン市街北東キングスクロスに所用があり、その後、北部界隈をドライブした。随所、億万長者の高級住宅地と薄汚れた公営住宅や貧困街が隣接する。

もう少し北上したら、暴動の渦中に巻き込まれていたかもしれない。私が訪れた街並みは普段と変わらず、帰宅した夜8時頃のロンドン南西部も極めて平和なものだった。

その夜、隣家の車からサテナビが盗まれた。この街でも店舗が数件襲われたと聞いた。路上の警官の姿は明らかに増えていた。

景気低迷と経済格差？ ネットを介した理由なき反抗？ 社会保障制度や英国人の自負する民主主義は、時として個人の権利ばかりが尊重され、収集のつかない構造を生み出しているのかも？ しかし、もしかすると、火種はもっと別の所にあったのかもしれない。

物が散乱した部屋の中、思いは散乱し飛躍する。政治も宗教も何事も中庸が一番、で今日はひとまず落ち着くことにする。

(2011年9月6日記 | 毎熊 千代子)